

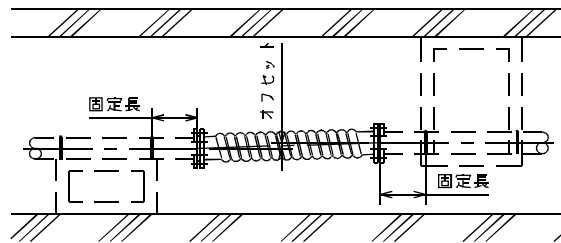
免震サプレックス施工要領書 (MF-Sシステム ゴム低圧)

「設置場所と納入品に相違無いことをご確認下さい」

1. 建物側、地盤側の固定架台を取り付けて下さい。
2. 配管を固定架台に取り付けし、取付面間、芯間寸法が設計寸法どおりか確認下さい。
また、内部流体重量によるたわみ防止のため、フランジ位置をオフセットして勾配を付けて下さい。

	許容芯ずれ (排水勾配分を除く)	許容面間誤差
MF-Sシステム ゴム低圧	±50mm	±20mm

	免震量		
	±500mm, ±600mm	±700mm	±800mm
オフセット量	30mm	40mm	50mm



3. 免震サプレックスを配管の中に入れて下さい。フランジパッキンは必要ありません。
4. フランジをボルト、ナットで固定してください。

注意点

・ 固定架台は出来るだけ免震継手の直近に設置願います

・ 左表の誤差範囲内に収まるように配管の施工、芯出をお願いします。

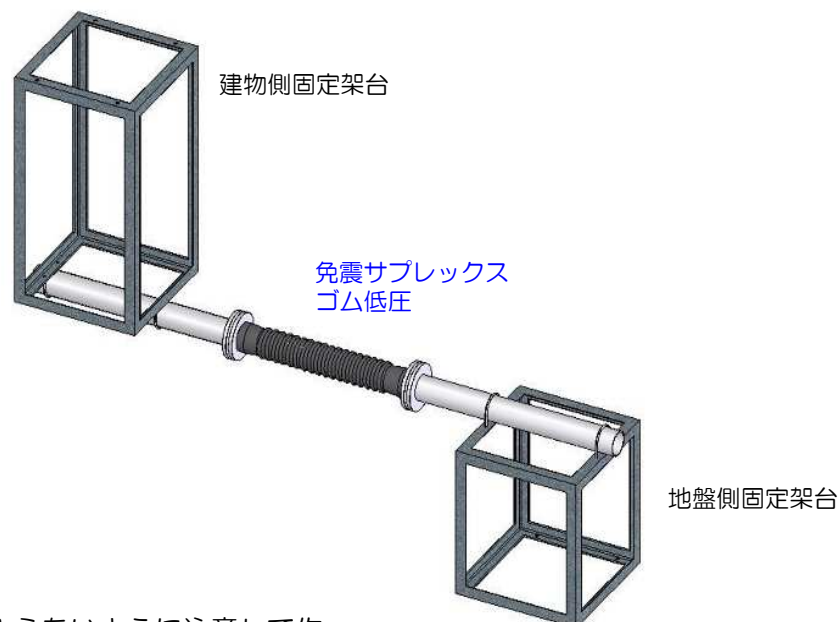
・ 接続配管は継手の反力値に応じて適切な材料、固定長で施工下さい。

・ オフセット量は口径に拠りません。

(350,400Aは別途お問い合わせ下さい)

・ ボルトの頭を継手側にして均等に締め付けて下さい。片締めにならないように十分注意下さい。

施工例



注意事項

◎ソール面に傷が入らないように注意して作業下さい。

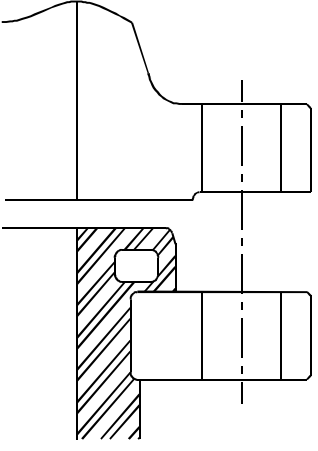
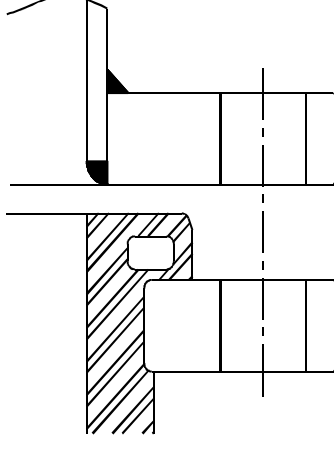
◎相手側配管フランジ面と直接接触してソールするため、相手側フランジの状態によっては使用出来ない場合があります。別資料の”ゴム製免震7ヶ所のフランジ接続について”を参照して、適切な状態で使用願います。

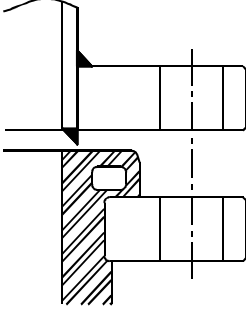
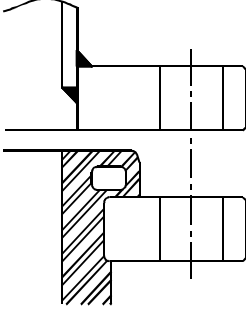
ゴム製免震フレキのフランジ接続について

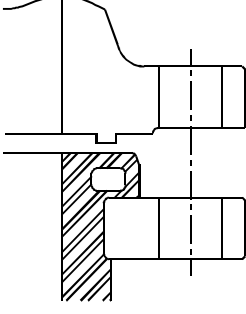
免震継手として使用されているゴム製フレキシブル継手は、取扱、施工の容易さから各用途に
 応じて広く使用されています。

しかし、ゴム製フレキシブル継手は、その特徴としてシール面のゴムにより相手側配管のフラン
 ジ面と直接シールする為、相手側配管のフランジ面の状態を明確に把握しておく必要があり、
 その判断を誤るとシール部の破損、水漏れの原因となるため注意が必要です。

よって、適切な状態で使用頂くために下記の内容について理解頂き、相手側配管フランジの
 施工に反映願います。

	フランジタイプ	
	管突合せ溶接式フランジ	差込み溶接式フランジ
形状		
判定	<p style="color: blue; font-weight: bold;">問題ありません</p> ゴム内径と相手フランジ内径が同等であり、シール面に均一に面圧が作用するため最適な仕様です。	<p style="color: blue; font-weight: bold;">問題ありません</p> フランジ内径の内側の隅肉溶接を、突起、段差など無きように綺麗に仕上げて使用してください。

	フランジタイプ	
	差込み溶接式フランジ	はめ込み式フランジ
形状		
判定	<p style="color: red; font-weight: bold;">使用できません</p> 溶接バリ等の突起がある場合は、シール面が破損します。バリ等で綺麗に仕上げてから使用下さい。	<p style="color: red; font-weight: bold;">使用できません</p> フランジ部に大きな段差がある場合は、角部に局部的な応力が作用し、シール面が破損する恐れがあります。

フランジタイプ	
はめ込み式フランジ	
形状	
判定	<p style="color: red; font-weight: bold;">使用できません</p> シール面は全面で均一に面圧を受ける事が理想的です。局部的に面圧が作用すると、早期に破損する場合があります。